

クラス	308	担当教員	赤石 憲昭
-----	-----	------	-------

テーマ	人はなぜ他者から認められたいのか？—— 承認論の最前線
-----	-----------------------------

著書・論文	「現代における「人間の問い」の意義：真下信一とマルクス・ガブリエルの哲学」 『現代と文化』第142号、2021年、31-62頁
研究課題等	「ホネットの承認論と社会福祉：『社会福祉の原理』と『人間の尊厳』の実現について」 『唯物論研究』第150号、2020年、90-102頁
	「スマホをやりすぎると人間になれない！？スマホ世代の人間観と承認をめぐる問題」 『共に生きる場を拓く：私たちの「仕合わせ」づくり』一粒書房、2019年、37-59頁
	「現代日本における承認問題—ホネットの承認論とその展開—」 『社会文化研究』20号、晃洋書房、2018年
	「「希望はテロ」の背後にあるもの：秋葉原事件の承認論的考察」 『リブレーザ』第7号、社会評論社、2008年
	研究課題：「人間のあるべき姿」の探求（ヘーゲル哲学、批判的社会理論）

ゼミナール概要

キーワード：承認、善く生きる、自己肯定感、自由、民主主義

ゼミのテーマ 「承認」（認めること／認められること）は、人間が人間らしく生きていく上で欠かせないものです。この「承認」を一つの主要な切り口として、人間らしい発達のあり方および人間らしい生き方について、人間それ自体だけでなく、社会や国家との関係をも視野に入れながら、総合的に探求しようというのが本ゼミの中心テーマです。ドイツの哲学者アクセル・ホネットによると、「承認」は、「愛」の承認、「法権利」の承認、「社会的価値評価」の承認に類型化され、この三つの承認に満たされていることが人間にとって最も充実した状態（「善く生きる」）であり、どれかが欠けている場合、人間のアイデンティティは不安定となり、その状態を克服するために「承認をめぐる闘争」が起こるとされます。たとえば、好きな人に認められることは、その人の人生にとってとても重要な意味を持つものであり、だからこそ、それを得ようと努力する、というわけです。SNSにおいて高評価や「いいね！」を求めることも同じ。社会的に言えば、様々な権利要求の運動もここに含まれます。その一方で、「みんなの前ではほめないで下さい」「自分の提案が採用されるのが恐いです」といった心性を持つ若者も増えてきているといいます。このような現在の動向も射程に入れながら人間についての理解を深めます。

あなたの学習とどう関わるか 「承認」の問題や哲学の議論は、一般教養としてだけではなく、人間について考える上では切り離すことができないものであり、みなさんがどのような研究テーマを扱う場合にも必ず顔を出してくるものです。もちろん、教育を考える上でも、その根底に、豊かな人間観が必要です。また、現在、社会が抱えている諸問題を考える上では、様々な場面で価値観の根本的な捉え直しや多面的な視野が必要となっており、「人間とは何か」を追求する哲学的な物の見方・考え方がますます重要になってきています。自分のテーマを研究していく上で、哲学的観点や社会的観点も取り入れながら、自分の考えをさらに深めてもらいます。

目的 文献を読み、まとめ、発表し、質疑応答をし、議論をし、卒業論文を作成するという過程を経ながら、大学生が身につけるべき基本技能を身につけるとともに、各自が自ら選んだ研究テーマについて考察を進めていく中で、子どもや人間に関する洞察を深め、将来の職業活動に役立てられるようにすることが本演習の目的です。

方法・授業計画 共通文献あるいは各自の関心のある文献を読み、まとめ、発表し、質疑応答をし、議論をする、というのが基本的な演習の進め方です。3年では、まずは共通文献の読解からはじめて、とくにすべての基礎となる「本の読み方・まとめ方」をしっかり身につけてもらいます。その後は、各自が興味を持った文献について、それぞれ自分で内容をまとめ、発表してもらいます。4年でも、卒業論文に関わる文献の発表が基本となりますが、文章の書き方まで含めて指導します。上記の内容も含め、進め方等については、参加者の意向も確認した上で、最終的に決定します。また、現在注目されている「子ども哲学」の手法についても学び・実践します。

※なお、社会の理解は一領域では完結せず、総合的な学習と理解が必要となります。このため、他の社会系の先生およびゼミとの相互交流・指導を行います。

担当教員からのメッセージ

大学3・4年は、勉強の基本的技能や、幅広い教養を身につけることができる最後の機会になるかもしれません。この演習では、私が担当する授業科目（哲学概論、人文科学の世界、社会科学の世界、市民社会の諸問題、ジェンダー論）の知を集約し、必要な場合には新たに補いながら、勉強の方法も含めて、あなたの研究および卒業論文作成のサポートをします。しっかり勉強しようとする意欲のない人は、本ゼミ生として「承認」できません。「哲学」のゼミです。引き続き「哲学特講」、「倫理学概論」、「倫理学特講（死生学）」も必ず受講してください。